スポーツプログラム No.16 速 報 2011.07.07 (木) 「2018年韓国・平昌招致応援活動で得たもの」 第22回冬季スポーツ科学フォーラム
ながの国際交流スポーツクラブ (長野市西三才192-4 TEL/FAX026-295-3265) 発表者：高橋 寛 8/4-5 野沢温泉村トレーニングセンター

1998年長野冬季五輪招致を応援してくださった 韓国・平昌(ピョンチャン)が2018年冬季五輪開催地に決定

*** 国際オリンピック委員会(IOC)総会(2011.7.6 南アフリカ・ダーバン) ***

ピョンチャンへの恩返しキャンペーンが現実の「形」に実った私たちの喜び!

長野五輪で培った私たちのノウハウの提供、交流を通じて「仲良し」を続けよう!

7月7日深夜、昨年のアジア大会(広州)並びに訪韓でお会いした諸外国の友人・関係者をはじめ多くの報道等関係者から、平昌決定の祝報をいただいた。今年2月のIOC現地視察の際、IOC委員に手渡した平昌招致実現のための、子供たちの応援画と子供たちによる連名の嘆願書、そして帰国後応援画キャンペーン、諸外国の関係者への働きかけに始終した5か月間だった。その間に発生した東日本大震災被災地への元気づけフォトプロジェクトによるメッセージと絵を送るキャンペーンを実施した。五輪招致応援画と被災地元気づけの二つの活動は二つの元気を届け、二つの元気をいただいた。招致に立候補したのは、平昌(韓国)、ミュンヘン(独逸)、アヌシー(仏蘭西)の三つの都市。平昌は3度目の挑戦。平昌と同じ県に当たる江原道の江陵市とは、1997年に交流のきっかけをつくり、2004年の端午祭・世界民族会議への出席などを通じ交流の兆しが整い、2008年から「海と山」の交流で当方から数回現地を訪れていた。時折しも、北朝鮮からの度重なる海洋事件、加えて東日本大震災、更には今年2月IOC視察団訪韓直前に永年交流の核としてご尽力をいただいた具斎薫氏の急死などが重なり、韓国側の来日が遅れている。平昌の五輪招致については、故具氏からの協力要請で2004年から手がけてきた経緯がある。この五輪開催決定を機に「五輪」と「海と山」の二つの交流を組合せその実現をはかりたい。特に、江陵市ボランティアセンターは、早くから、2018年の冬季五輪が平昌に決まれば、先輩格の長野のノウハウを求めたい要望を強く感じた。韓国ドラマ 冬のソナタ 発祥の地 平昌への新幹線実現(インチョン－江陵1時間半)に期待(昨年の市長談話)。7月3日までIOCをはじめ関係諸外国へ展開してきた「平昌冬季五輪招致実現応援画」キャンペーンは、今後「五輪と海・山の交流」に切り替え、またチャレンジデー2011「スポーツの力で日本を元気に」(東日本被災地向け元気づけエールを送る活動)は、そのまま継続予定。

このたびの招致応援活動を通じて得た賜物は、限りなきスポーツ科学とスポーツ環境への探究、幅広い人間関係の構築、そして助け合いの精神(顧客志向)の大切さであった。

＊ 関連する他の動き: ① 2014年冬季オリ五輪12の新種目追加(フリースタイルの男女とスノーボードの男女に各スロープスタイル計4、スノーボードの男女パラレル計2、スキージャンプ女子・フィギュア団体等計6)。スロープスタイルとは、コースに設けられた障害物を越えながら滑る。② 2020年夏季五輪で採用される1競技の候補に8競技(2012年ロンドン五輪で除外の野球・ソフトボールに空手・武術・スカッシュ・ローラースポーツ・スポーツクライミング・水上スキーのウェークボードを加え計8)。

振り返る2018年 韓国・平昌冬季五輪招致 応援活動 2011年2月

1 韓国平昌冬季五輪招致応援キの成果に期待：2月に2018年冬季五輪平昌開催を願う児童応援画40点と嘆願書を韓国でIOC視察団に提出に続き、更に韓国IOCなどへの応援画フォト80点を提出。7月6日南アフリカ・ダーバンで開催予定のIOC総会前の7月初旬まで実施。立候補は、平昌(韓国)、ミュンヘン(独逸)、アヌシー(仏蘭西)の3か国。現時点までの情報では、やや平昌が優勢と聞いている。(3~6月諸外国関係者に打診。熱意・小域・まとまり・中身充実。課題は人工雪)

平昌スキーリゾートの夜景↑。白馬村からキッズクラブへスキー寄贈↑ ↑長野五輪資料を江陵市長へ寄贈。↑横渓(ハンゲ)初等学校を訪問。↑イエス ピョンチャン 子供達の応援画↑

2 韓国MBCテレビニュースと特別番組放映：IOCへ子供たちの応援画と嘆願書提出、横渓初等学校訪問、白馬村からの少年・少女スキークラブへジャング スキー寄贈(5台)、IOC視察団および市民との交流、長野五輪資料を江陵市長・招致委員会・韓国IOC等に寄贈。韓国MBCテレビ局が特別番組として放映、IOCへの反映期待。

↑上段一連：歓迎ボード。↓平昌青年会議所と交流会。↓江陵とソウルからの応援関係者。↓信濃毎日新聞。↓韓国・江原道日報。↓Yes Pyeongchang 応援画